

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
 - e その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- 理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

Ⅰ (小説) 採点基準 (合計 50 点)

問一 10 点

(模範解答例)

A 2 点

「物質」の領野での変容にかかわる知識を

B 3 点

「生きているもの」の領野で経験される現象に結びつけ、

C 5 点

細菌という病原体を科学的思考のなかに定着させた。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「物質」の領野での変容にかかわる知識(物理学、化学)「無生物」の領野から自然の運動と現象の総体を説明する学知)の指摘…2点

B Aを「生きているもの」の領野で経験される現象(「生物」という人間が経験的に古くから馴染んできた「日常的な形象」)に結びつけたことの指摘…3点

C 細菌という病原体を科学的思考のなかに定着させた(「細菌が伝染病の原因である」と証明すること成功した)ことの指摘…5点

問二 6 点 (各3点)

X 〃 〇 Y 〃 二

問三 5 点 イ

問四 15点

(模範解答例)

A 3点

人間とは異質な世界を生きるダニの世界を記述したユクスキュルの「環世界論」を紹介することで、

B 4点

物質的次元で生命をとらえる技術や思考法が進展するうえで生じる

C 8点

不確定性や盲点を考える手がかりとしたいという意図。

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う（A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない）】

A（人間とは異質な世界を生きるダニの世界を記述したユクスキュルの）「環世界論」を紹介する

ことで…3点 *「人間とは異質な世界を生きるダニの世界を記述したユクスキュルの」の部分はなくても減点しない

B 物質的次元で生命をとらえる技術や思考法が進展するうえで生じる…4点

C（物質的次元で生命をとらえる技術や思考法の）不確定性や盲点を考える手がかりとしたい

という意図…8点

C 別解 「世界」に対しては、私たちには決して容易に「理解した」と言うことはできないことを認識させるという意図

問五 5点 ハ

問六 4点 V

問七 5点 ニ

大問二 問一

基準 配点.. 2点×4

■模範解答 ※解答例通り(漢字書き取り問題)

- 1 羅列
- 2 緊密
- 3 好対照
- 4 代物

大問二 問二

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A

「芸術」とは、もともと「美しい技術」を意味するものであるから、

B

「美しくない芸術」という表現は

C

「芸術」を言い表していることにはならないということ。(72字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 「芸術」とは、もともと「美しい技術」を意味するものであるから…3点

- ・「芸術」の本来的な意味を説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 「美しくない芸術」という表現は…3点

- ・「形容矛盾」とされる表現を指摘していないものは、要素B加点数なし

■要素C 「芸術」を言い表していることにはならないということ…3点

大問二 問三

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

二

大問二 問四

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／並立で「〜と〜」とするのが基本
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 6点

■模範解答

A

美しいものを産出する技術と

B

実用品を作る有用な技術。 (25字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…二十五字以内 十二字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 美しいものを産出する技術…3点

- ・「分けた」もののうちの一方である「美しいものを産出する技術」を指摘していないものは、要素A加点数なし

■要素B 実用品を作る有用な技術…3点

- ・「分けた」もののうちの一方である「実用品を作る技術」を指摘していないものは、要素B加点数なし

大問二 問五

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

□

大問二 問六

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A

芸術とは神が創造した美を絶対的な理想とした概念であり、

B

人間はその神の創造に倣って美を実現しようとするため、

C

芸術が美しいのは当たり前であるということ。(74字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字以内 三十九字以下のもは全体不可(0点)

■要素A 芸術とは神が創造した美を絶対的な理想とした概念であり…3点

- ・「理」を説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 人間はその神の創造に倣って美を実現しようとするため…3点

- ・要素AとBのつなぎとして、「人間が神に倣った」ということを説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 芸術が美しいのは当たり前であるということ…3点

- ・「当然」を言い換えていないものは、要素C加点数なし

大問二 問七

基準 配点.. 6点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

水

問一 空欄 a · b · c に入る語として最も適当なものを、それぞれ一つずつ選び、記号で

答えよ。【各2点・計6点】

※採点方法 a、cとも正解以外は×。

a [正解] ニ 【2点】

b [正解] イ 【2点】

c [正解] ロ 【2点】

問二 ① 傍線部を現代語訳せよ。

【4点】

〔傍線部〕

A4 何の疑ひかあるべきなれども、

〔解答例〕

A4 何の疑いもあるはずはないけれども、

※採点方法 要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

【4点】 何の疑ひかあるべきなれども、 ↓ 何の疑いもあるはずはないけれども、

※「疑いはない」の意がない場合は×。

※「何の」＋「疑いはない」＋推量（～はず・～だろう）＋逆接（～けれども・～けれど・～が等）で【4点】。

※「何の」、推量、逆接、のうち一つ欠けるごとにマイナス点。

※「かけられる」等、余計な表現がある場合は、一つにつきマイナス点。

※文末の句読点の有無は不問。

〔傍線部〕

A2 ただ B2 置くべきにあらざ、

〔解答例〕

A2 そのまま何もしないで B2 おくわけにはいかず、

※採点方法 各要素単独採点。ただし、Bは赤字の条件あり。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】ただ置く ↓ そのまま何もしないで置く

※「そのままにしておく・そのまま置いておく」の意があればよい。

※「そのままにする」の意がなくても、「放っておく・尋問せずにおく・責任を追及せずにおく・捕まえ
ておく」等の意があればよしとする。

※「ただ」の有無は不問。

B【2点】べきにあらざ、 ↓ わけにはいかず、

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※不可能（ことはできず、おけず・おけなくて 等）、打消当然（べきではなく、）でもよい。

※語尾が「ず・なく・なくて・ないので」以外の形になっている場合は、マイナス点。

※「かけられる」等、余計な表現がある場合は、一つにつきマイナス点。

※文末の句読点の有無は不問。

問二 ③ 傍線部を現代語訳せよ。

【4点】

〔傍線部〕

A1 仰せに従って、B1 その沙汰を C2 致さんために、

〔解答例〕

A1 御命令に従って、B1 その処置を C2 いたそうとするために、

※採点方法 各要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【1点】仰せに従って、 ↓ 御命令に従って、

※「御命令」は「御言葉・おっしゃったこと」等でもよい。

※「に従って」は「どおりに・のままに」等でもよい。

B【1点】その沙汰を ↓ その処置を

※「処分を」、または「拷問を・白状させることを」等でもよい。

※「罰することを」は×。

C【2点】致さんために、 ↓ いたそうとするために、

※「するために・行うために」の意がない場合は×。

※「するために・行うために」+謙譲(いたす・し申し上げる)+意志(〜しよう) 「または、婉曲(〜
ような)」で【2点】。

※謙譲、意志・婉曲、のうち一つ欠けるごとにマイナス1点。

※余計な表現がある場合は、一つにつきマイナス1点。

問三 A 傍線部はどのようなことを言っているのか。三〇字以内で説明せよ。

【5点】

〔傍線部〕 主上山門を御語らひありし

〔正解〕

A2 後醍醐天皇が、**B3** 延暦寺の僧たちを味方につけようとしたこと。 (二八字)

※採点方法 各要素単独採点。ただし、**A**は赤字の条件あり。 ※字数 三〇字以内。

〔ポイント〕

A【2点】 後醍醐天皇が、

※**B**が0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「天皇が・帝が」でもよしとする。

※「主上が」は【1点】。

B【3点】 延暦寺の僧たちを味方につけようとしたこと。

※「延暦寺を味方につけようとしたこと・延暦寺の僧たちと相談したこと」等でもよい。

※「延暦寺の」がない「僧たちと相談したこと」は【1点】。

※「幕府転覆の計画について」等の有無は不問。

問三 B 傍線部はどのようなことを言っているのか。三〇字以内で説明せよ。

【5点】

〔傍線部〕 尊体に御煩ひもなく

〔正解〕

A2

円観上人が、

B1

拷問にかけられることなく

C2

無事であったこと。

(二七字)

※採点方法 各要素単独採点。ただし、Aは赤字の条件あり。

※字数 三〇字以内。

〔ポイント〕

A【2点】円観上人が、

※BもCもO点の場合は得点できない。ただし、誤字等でO点になっている場合は得点できる。

※「円観が」でもよい。

※「上人が」は【1点】。

B【1点】拷問にかけられることなく

※「拷問にかけられなかった」の意、もしくはCの「傷つけられなかった」に係るかたちで「拷問で」の意があればよい。

※Cがない「円観上人が問にかけられなかったこと。」(【3点】)でも得点できる。

C【2点】無事であったこと。

※「(体に)傷一つ付けられなかった・傷つけられなかった」等でもよい。

問四 傍線部Cとあるが、相模入道が円観上人をそのように処分したのはどうしてか。本文に即して説明せよ。 【8点】

〔傍線部〕

円観上人ばかりをば遠流の一等を宥めて、結城上野入道に預けられしか

〔解答例〕

A3 比叡山の猿たちが上人を守るように並ぶ夢を見、**B3** 瞑想する姿が不動明王のようだという報告を受けて、**C2** 円観上人がただ者ではないと感じたから。

※採点方法 各要素単独採点。

※字数 指定なし。

〔ポイント〕

※ この設問の解答では「上人」は「上人・円観上人・円観」のいずれでもよい。

A【3点】 比叡山の猿たちが上人を守るように並ぶ夢を見、 (くたから)

※ 「(上人を)猿が守っている夢を見た・(上人が)猿に守られる夢を見た」の意があれば【2点】。

「上人を・上人が」は解答全体で読み取ればよい。

※右の意がある上で「比叡山の」の説明があれば【3点】。

※夢の内容が明らかでないが「不思議な夢を見た」のような説明がある場合は【1点】。

B【3点】 瞑想する姿が不動明王のようだという報告を受けて、 (くたから)

※ 「(上人が)不動明王のようだった」の意があれば【2点】。

「上人が」は解答全体で読み取ればよい。

※右の意がある上で「瞑想姿が」の説明があれば【3点】。

※説明が十分でないが「不動明王を見た」のような説明がある場合は【1点】。

C【2点】 円観上人がただ者ではないと感じたから。

※ 「ただ者ではないと思った」の意があれば【1点】。

※右の意がある上で「上人が」の説明があれば【2点】。

問五(一) 波線部甲と乙は共通する動作を表すが、それはどのような動作か。解答欄に当てはまるように、五字以内で答えよ。 【3点】

〔波線部〕

甲 墨染の袖をしばり給へば

乙 鎧の袖をぞ濡らしける

〔解答欄〕

五字

動作。

〔解答例〕

泣く 【3点】

〔別解答例〕

涙を流す 【3点】

※採点方法 要素単独採点。 ※字数 五字以内。

〔ポイント〕

【3点】泣く(涙を流す)

※「泣く・涙を流す」と同意で、直後に「動作」が続く語であればよい。

※「泣くこと」のように、右の意があっても、直後に「動作」が続く状態で書かれていない場合は

【一点】。

問五(2) 共通する動作を示しながらも、波線部甲は「墨染の袖」、波線部乙は「鎧の袖」と表現されているのはどうしてか。簡潔に説明せよ。

【4点】

〔波線部〕 甲 墨染の袖をしぼり給へば

乙 鎧の袖をぞ濡らしける

〔解答例〕

A2 甲の主体は僧、**B2** 乙の主体は武士であるから。

※採点方法 各要素単独採点。 ※字数 指定なし。

〔ポイント〕

A【2点】甲の主体は僧（〜であるから。）

※「甲は僧だから」の意があればよい。

B【2点】乙の主体は武士であるから。

※「乙は武士だから」の意があればよい。

※「甲は僧、乙は武士。」のように語尾が「〜から・〜ので・〜ため」等、理由説明の語尾になっていない場合は、**マイナス2点**。

問六 Xの和歌の説明として適当でないものを一つ選び、記号で答えよ。

【5点】

※採点方法 正解以外はX。

【正解】ホ 【5点】

問七 『太平記』以外で、軍記物語に属する作品の名を二つ、漢字で記せ。Xの和歌の説明として適当でないものを一つ選び、記号で答えよ。

【各一点・計2点】

【解答例】これらの作品が書かれていれば、一つ【一点】。

平家物語・義経記・将門記・陸奥話記・保元物語・平治物語・源平盛衰記・曾我物語

※採点方法 漢字で書かれていない場合や、漢字が誤っている場合はX。

【ポイント】

※「太平記」はX。

※正しいものが三つ以上書かれていても得点は【計2点】まで。

三つ以上書かれていて、正しくないものが書かれている場合は、一つにつきマイナス1点。

例 ○平家物語・○義経記・○将門記 ↓ 【計2点】

○平家物語・○義経記・X源氏物語 ↓ 【計1点】

○平家物語・X源氏物語・X徒然草 ↓ 【計0点】

2021年度 第4回 早慶上理・難関国公立大模試

四 (漢文) 採点基準 (合計 50点)

問一 各2点 2×4=8点

解答

a ㄥすくなく b ㄥたまたま c ㄥあいともに
d ㄥすでに

採点基準

- ・送り仮名のないもの一点 例 a「すくな」「すく」 c「あいとも」「すて」「すて」
- ・仮名遣いの誤り一点 例 c「あひとも」「すくなく」「すくなく」
- ・終止形にしているもの一点 例 a「すくなし」「すくなく」「あひとも」も一点。

問二 各3点 3×2=6点

解答例

A そのたびごとに

B 普通の人々が 住んでいる ところ

採点基準
・ A 「そのたび」「毎度」など可。

・ A 「すぐに」「即座に」は一点。

・ B 「人里」「一般の人の入る場所」「町」「街」「村」
などは許容とする。

・ B 「くに」は不問。

問三

6点

(有名人は8点)

解答

無^シ
ニ^{トシテ} 夕^{ルハ} 不^レ 飲^マ

採点基準 返り点…3点

送り仮名…3点

返り点 「無」の下の「ニ」…1点

「不」の下の「レ」…2点

送り仮名 間違い一箇所につき…1点減。三か所以上誤りは0点。

「ルハ」の「ハ」はなくとも可。

問四 各3点＝6点

解答例

書き下し文＝故人に命じて 之を 書せしめ

a 1点 b 1点 c 1点

採点基準

a 「命じ」も許容。

「故き人」も許容。

b 「これを」とひらがなにしたものも許容。

c 「書せしむ」「書かしめ」「書かしむ」も許容。

「書かせしめ」は×。

*漢字をひらがなで書いている場合、

2箇所までは許容、3カ所は2点。

すべてがひらがなの場合は1点。

*誤りには、直しを入れてください。

d 1点 e 1点 f 1点

解答例

現代語訳＝旧友に頼んで この詩を 書き写してもらい

採点基準

d 「昔なじみ」「親友」「友人」など許容。

e 「これ」「之」のまま、0点。

f 「書かせる」「書かせた」も許容。

解答例

a 2点

b 1点

c 2点

どうして 人里に住んでいながら 俗事に煩わされることがなく

d 1点

いられるのか。

採点基準

a 原因・理由を表す疑問文になっている…許容。

「どうして」だけでも1点加点。

b 「人里」は「人の住むところ」「街・町・村」も可。

「住んで」は「居ながら」「暮らしながら」など。

「ながら」「は」「しかも」など。

c 「世間のこと」「世俗的なもの」「人に」「喧騒から」
など許容。

d 可能表現（不可能）になっているもの加点。

問六 【解答通り】 3点

解答
二

問七 【解答通り】 各3点 || 6点

解答
(甲) || 菊 (乙) || 酒

解答例

a 2点 b 2点

酒を飲み 世俗の煩わしさを忘れ、

c 2点 d 1点 e 2点

自然の中で 独り 自適の生活を送っている ということ。

採点基準

全体：字数が二十字以上ならば、要素が入っていれば加点する。

文が完成していないものは0点。

a 「飲酒」の要素に2点。

b 「俗世」を気にしない・離れたという要素に2点。

「世間」「日常」「俗世」「他(人)」は許容。

c 「自然」の要素に2点。

d 「独り」の要素に1点。

e 「気まま」「自適」「思い通り」「理想の」などの要素に2点。

以上